

AA

日本ニューズレター No.89

## 東京と大阪でワークショップ

## ニューヨークGSOからの仲間を迎えて

## J S O

8月8日(水)午後、東京池袋の東京芸術劇場でニューヨークGSOの所長(ゼネラルマネジャー)グレッグ・Mさんと、同じく国際担当(インターナショナルコーディネーター)のエヴァ・Sさんをお招きし、J S O主催によるワークショップが開かれました。テーマは「ニューヨークGSOと語ろう」、野崎J S O所長が歓迎のあいさつ、そして東北の仲間ジェームズさんが英日・日英の通訳を担当し、司会は今年の2月までJ S O職員だった山本さん(元ワールドサービスミーティング評議員)にお願いしました。

予定外のスケジュールとなったため、急遽、全国のグループへ7月半ばのお知らせとなり、また収容定員が制限され、予約による出席確認などメンバーの皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。おわび申し上げます。

平日の午後にもかかわらずほぼ定員一杯の出席者で、盛況のうちに終えることができました。参加者の大半はAAのメンバーで、内5名ほどは東京の英語グループの仲間、また、若者のアルコール依存症をテーマに現在取材を進めているNHKのディレクターも参加してくれました。

翌9日(木)午後には、大阪西区区民センターで同様のワークショップが開かれました。こちらは関西地域のサービス機関が合同で主催、関西オフィス新村さんのあいさつ、司会は現ワールドサービスミーティング評議員の野村さん、通訳は関西の仲間ミツさんとすすみさん。参加者は予想を大幅に上回り、東京とほぼ同数の参加者がつめかけて熱気にあふれた集まりになりました。このなかにはAAの友人であるソーシャルワーカーもお二人含まれております。

両会場とも、前半はグレッグさん、エヴァさんから各々20分程度のプレゼンテーションがあり、そのあと質疑応答の時間がもたれました。

グレッグさんのお話はAAの誕生から4年後(1939年)にできたビッグブックがいまなお果たしている役割(ハワイでのビッグブックとの出会いというご自分の経験を織り交ぜたお話)、特にいろいろの言葉に翻訳されたビッグブックがワールドサービスのなかでどんな位置を占めているかということについて、またアメリカ・カナダでいよいよビッグブック第4版(個人の物語の一部が新しいものと入れ替わり、また新たに12の概念を収録。なお、個人の物語の応募原稿は1、220篇あまりだったとのこと!ちなみに日本は10篇)と第1版以来の個人の物語を選びすぐった選集が近々発行されることなど。

また、エヴァさんからは(事前にレジュメを提出していただきました。アメリカでも来日直前まで超多忙で、日本に到着した7日の夜、ホテルで書き上げてくれたそうです。感謝!)レジュメにしたがって、いまAAは世界のどんな国

々へどのように伝えられ、広まっているかというホットなお話がありました。国境も民族の違いも超えて、AAは全世界の苦しんでいるアルコールクの心を捕えつづけています。その数はいまや220万人に届こうとしているそうです。世界のAAの焦点の一つはアジアであるといわれていますが、たくさんの宗教が混在し、複雑な政治問題を抱えているこの地域にも、AAの愛の手を必要とする国が確実にふえてきていることが、実際に現場を歩き見て来た人の言葉で語られました。

両会場での質疑は多岐にわたるものとなりました。しかし、紙幅の関係でここでは全てを紹介することはできません。ただ個人的な感想を交えて言うと、それはとても真剣なもので、なんとかしてAAの誕生したアメリカ/カナダの経験から学び取りたいという意欲にあふれていました。私は、26年経った日本のAAが今間違いなく新しい節目を迎えつつあることをここでも感じとることができました。

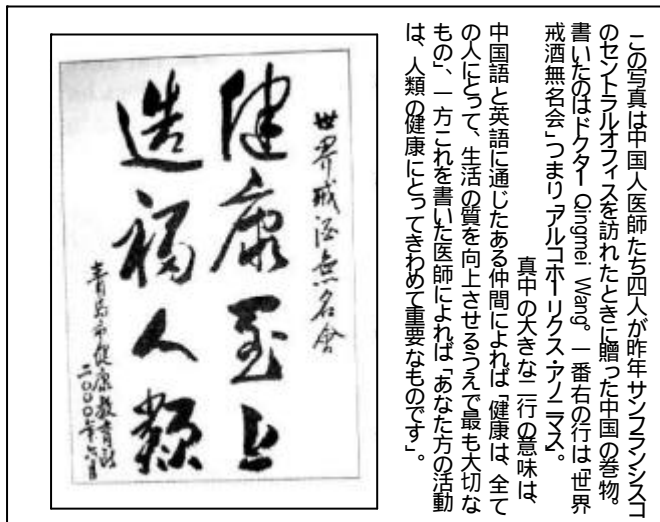
一つ二つ例を挙げると、まず長年にわたって日本のAAの「不思議」の一つとされてきた「アノニミティー」についてです。運動が広がり、メッセージを伝えようとする力が強くなるにしたがって、旧来の「日本型アノニミティー」のもっている狭い枠組み(例えばアノニマスネームという不思議な存在)は広がりをも阻む壁として意識されるようになりました。アメリカ/カナダではアノニミティーはどう理解され、実情はどうなっているのか。お二人からは、実名(フルネーム)を伏せることの必要性は活字、電波、映像の分野についてであること(伝統11)、しかしAAのなかでは逆に実名を明らかにする必要があること(本人がその必要性を感じた場合という条件付)を実例をあげてお話いただきました。アノニミティーに現わされる謙遜という霊的な原理は、マスメディアのレベルと個人のレベルでは異なった形をとって実践されるべきというのです。

スポンサーシップについても率直な質問が出されました。AAメンバーは全員が平等であるという原理が日本のメンバーに浸透するにしたがい、ベイビーという言葉に象徴される日本のスポンサーシップについて、アメリカなどでも同じようにやっているのだろうかという率直な疑問が生まれています。エヴァさんからは、スポンサーとしてのまたスポンサーとしてのご自分の経験にたったお話が聞かれました。あるときAAのサービスについてスポンサーの考えを聞こうとしたら、その問題は私には経験がないからと言ってある別の仲間と相談するよう提案されたこと、ご自分の家にスポンサーをよんで、食事会などをすることはあるけれども、自分が先生のようにAAの原理などを「教える」ことは決してしないようにしていることなどが話されました。

以上の二つは東京、大阪で分かち合われた内容のほんの一部ですが、ここに紹介したものだけでも日本のAAの今後の方向についての貴重な示唆を汲みとることができるのではないのでしょうか。(後日、二つの会場での分かち合い プレゼンテーションと質疑応答の両方 を一本にして記録した報告書が作成されます)

## 東京から北京へ

7日(火)に来日、8日(東京)、9日(大阪)のワークショップに出席されたお二人は、11日(土)、この旅行のおもな目的地である北京に向けて日本を発ちました。現地ではアメリカから直行するジョージ・ベイラント先生(ノンアルコール常任理事)と合流します。3人は8月19日まで中国に滞在し、北京大学大学病院のアルコール担当医師を初め、中国医学会の人たちとお会いになるそうです。



この写真は中国人医師たち四人が昨年サンフランシスコのセントラルオフィスを訪れたときに贈った中国の書物書いたのはドクター・ジョージ・ベイラント。一番右の行は世界戒煙無名会「つまりアルコールリクス・アノニマス」真中の大きな「行」の意味は「中国語と英語に通じたある仲間によれば「健康は全ての人にとって、生活の質を向上させるうえで最も大切なもの、一方これを書いた医師によれば「あなた方の活動は人類の健康にとって極めて重要なものです」。

社会主義中国の医師たちはどうしてAAに関心をもつようになったのでしょうか。最後にそのいきさつを簡単に紹介し、ドクター・ベイラント、グレッグさん、エヴァさんの中国への旅行が大きな実を結ぶよう祈りたいと思います。

昨2000年にAA誕生65周年を祝うインターナショナル・コンベンションがアメリカ、ミネアポリスで開かれました。そこには招待された4人の中国人代表がいました。うち2人は北京大学の若き医師。オープニングセレモニーで、巨大なスタジアムを埋めた5万人以上の参加者の「ウェーブ」に見とれていた彼らは、誘われるままにいつしか自分たちも両手を挙げてウェーブに参加していました。最初彼らにはAAのプログラムが信じられなかったかもしれませんが、しかし、コンベンションで開かれたいろいろなミーティングに出席し、ベイラント先生をはじめとするノンアルコールの専門家たちや、グレッグさんなどのGSOスタッフ、そして各国のメンバーと会い、交歓し、彼らはAAのすばらしい力を中国でも試してみようという気になったのです。

北京大学付属の病院ではAAミーティングが始まりました。中国の医師たちは、AAの効き目を信じ始めているようです。集会の制限や神、ハイパーパワーあるいはスピリチュアリティの概念など、AAを理解するうえでの社会体制の

制約があるわけですが、中国の医師たちはいまそのような困難はきっと近い将来には乗り越えることができると楽観的に考えています。(この項の一部は、ニューヨークGSO「ボックス459」2001年2-3月号から抄訳)

### 今回のワークショップで、司会、通訳という重責を果たされた仲間から感想をいただきました。

\* 先日の「ニューヨークGSOと語ろう」のワークショップで通訳という役割のなかで、GSO所長のグレッグさんと国際担当のエバさんの話を聞いていて、アルコールリクス・アノニマスの普遍的な力と凄さを改めて感じ、「AAはやはりビッグ・ブックしかないなあ」と思いました。また、世界のAAの力と経験と希望を日本のメンバーのために分かりやすく日本語に変えるという自分の役割がいかに大切かをなおさら思い知らされた気がします。貴重な経験をさせていただいたことをハイパーパワーに感謝します。(ジェームズ、大崎ビッグブックグループ)

\* 私は何もお役に立たなかったが、女性の通訳の方はすばらしかった。AAにも多くの人材のあることを知った。又、グレッグさんとエバさんにお会いでき、アメリカのAAミーティングではどんなことをやっているのかも聞け、今後ミーティングのやり方に参考にしていきたいと思う。個人的にもいい時間を過ごさせてもらい感謝しています。(ミツ、明石グループ)

\* 自分が生業としている技術を仲間のために役立てることができ、ほんの少しですがこれまでの「埋め合わせ」ができたような気になり、嬉しかったです。また朝起きの苦手な私にモーニングコールをかけてくれたタイムさんをはじめ、たくさんのおかげで無事に通訳を務めることができました。どうもありがとうございました。(すずみ、関西)

\* 関西の仲間にとってめったにない機会だった。直接会い直接に聞くというのは非常に良かった。AAの歴史を肉声で聞けたのだから。とてもゆっくりとしかもクリアな発音で話してくれたので、通訳を通して聞いて方にも良かったと思うが、そのまま理解できた方もかなりおられたはず。それにしても、通訳がしっかりしていたので、参加者はお二人のお話を十分理解できたはずで、関西AAにとってとても良い経験だった。

エヴァさんの、世界への広がり特に共産主義の中国でAAの関心が高くなっているという話を聞き、AAにとって未来は明るいということを実感した。もちろん共産主義だからハイパーパワーをどう理解してもらおうかという問題もあるけれど。事前の質問票がたくさん集まったがほぼ全部こなしで答をもらえたのも良かった。

ワークショップのあとKCOを見学してもらったが、これもとても良かったと思う。(談・野村、W・S・M評議員)

## —AA メンバーシップサーヴェイ 2001— ご協力ありがとうございました

5月25日から6月10日にかけてお願いいたしましたメンバーシップサーヴェイの集計作業が進んでいます。有効回答数は、前回(1997年)の1割強の1855件ありました。現在(8月15日)、約100件のデータの内容確認が必要とされ、そのデータ修正を8月中旬に終えて最終報告の作成に取り掛かる予定です。

広報担当常任理事：木村



## 矯正施設メッセージの新たなるスタート

「AAのひきつける魅力に基づく広報活動」とは、私たちの回復と同じように時間がかかる。だが、確実に成長する。1994年5月、海を渡ってニュージーランドから4人の仲間が突然にやってきた。アジア・オセアニアサービスミーティングを開こうというメッセージを伝えるためだった。私たちはできないと思っていた。だが、実現した。それは、その年のワールドサービスのハイライトとなった。

時を同じく、月島でワークショップを開いた。日本の法務省の関係者もその席に来てくれていた。私たちは矯正施設へのメッセージなど遠い未来のことだと思っていた。ニュージーランドの仲間から具体的な経験が話された。法務省の関係者からも日本の現状が話された。そこに居合わせたAAメンバーの心に「矯正施設」の扉を開く鍵を見つけた感じが残った。そして、試行錯誤のなかで少数のAAメンバーによる活動がスタートした。

その3年後に「府中刑務所」にAAメッセージを運ぶことができた。2000年には、横浜、横須賀、前橋の刑務所の扉も開いた。3施設の更生保護施設にもAAメッセージが運ばれ、施設退所後にAAミーティングに参加する仲間となって、更生保護施設にAAメッセージを運んでいる姿がある。2001年「関東甲信越地域委員会」に「矯正施設小委員会」が設置された。このことで、矯正施設へのメッセージは堅実な歩みとなった。

初めての活動は、「パブリックミーティング」開催だった。

テーマは「共通点を探そう」と決めた。だが、どのようなプログラムにすればよいのか、パネリストの依頼、関係者への呼びかけをどうしたらよいか、私たちだけでは力不足を感じていた。1994年に来てくれていた関係者に相談した。快く協力を承諾してくれた。成功だった。

パネリストの一人が言った。「画期的な始まり」を感じていると、私たちも思った。また一步「矯正施設」の扉が大きく開く音が心に残った。

パネリストから「AAの広報活動の重要性。刑務所のある地区のAAグループの情報交換の重要性。刑務所へのメッセージも特別な場所ではなく、同じ病気からの回復を目指す仲間であること。飲酒の問題を解決し、社会的に自立した経験がAAのひきつける魅力なのだということを忘れないでほしいこと。AAメンバーは先走りしすぎることを、一般社会や関係者のペースに合わせてほしいこと」また、刑務所から出所した仲間が、飲酒して傷害を起こすと3年の刑を受けることになること、そのため、AAのメッセージと平行してAAのスポンサーシップも今後の課題としてほしいこと、ひとつの考え方として、刑務所経験のあるAAメンバーがダブルクローズのミーティング場を開き、同じ経験を分かち合ってもらいたらとの願いがあること、の提案をいただいた。

これを契機に、12月23日に「矯正施設フォーラム」を開くことを決めた。いくつかの具体的活動が「委員会」で話し合われた。忙しくなりそうだが、でも、「あせらずゆっくりやろう」を忘れない程度に。



関東地域矯正小委員会

## 出版部門からの報告

評議会から六ヶ月たち、一年の半分が過ぎようとしています。評議会では出版からの議題も数多く審議検討され、本年度の方針として採択されましたが、その後の経過を報告いたします。

### 【十二のステップと十二の伝統アンケート】

七月の常任理事会での審議を経てアンケート原案が作成され、八月十五日付けで全グループへお送りしました。できるだけJ.S.Oの経費を安上がりにしたことから、集められた回答はグループの費用でJ.S.Oあてお送りいただくようお願いしております。

締め切りは十一月末とします。ご協力をお願いします。

### 【BB個人の物語の編集作業】

個人の物語の原稿十数寄せていただいたこと、BB個人の物語選定委員を六名お願いしたこと、選定委員の皆様へ原稿をお送りし七月末までに推薦作品を選定して下さるよう依頼したこと、までは報告済みです。

現在までに殆どの委員から推薦原稿が挙がっております。しかしどの作品もそれぞれに力作であったことから、推薦が割れていて予想以上に重たい作業になりそうです。

このような事情ですので、ビッグブックのハードカバー版（個人の物語付き）の出版は今しばらくの時間をいただきますことを報告します。

### 【「よつこそAA」進行状況】

評議会での報告では、今年には各評議員の協力を得て更に多くの意見の収集に当たる、としておりました。その後各方面から寄せられる状況を見ますと、各地によつてばらつきは見られますが、多くの地域でメンバーの目に触れているようです。

またラウンドアップ等の機会を通してかなりの部数が配布されたとも聞いており、予算の状況も考慮し延期しております。七月の理事会に改めて議題として提出し、

AAプログラムオリジナル版であること。

評議会承認出版物に向けての取り組み、を確認しました。

の議論の中で「よつこそAA」の洗練された出版物としての成長の可能性はかなり高く、メンバーが利用していく中で成長を計りたいとの合意が得られ、再度推敲作業、評議会承認に向けた取り組み作業の見直しに取り組んでいます。

# 九州・沖縄ラウンドアップ(大分・城島)を終えて

実行委員長 サイ

九州・沖縄ラウンドアップを大分で開催しようと思ったから、この一年間、私は何をどうしてここまでやって来たのか、良く覚えていない。昨年の宮崎が無事終了したその日から大分のラウンドアップが始まったと思う。しかし、記憶をたどってみても途切れ途切れにしか思い出す事ができない。とにかく、なんとか成功させたいという気持ちだけで、懸命だったのだと思う。次々に起こるハプニングに対し、様々な立てなおしの連続、口には出さなくてもいいが「疲れた」と言葉が飛び出してしまうことも何度あったことか。それでも、不思議な事に次の日からまたラウンドアップに向けて挑戦する気力が湧いてきたのだ。いやだなあ。実行委員長なんか引き受けるのではなかったな。とぼやきもしたが、それ以上に忙しくて、ぼやいている暇も無いほど次から次にいろいろな仕事が続いていた。先を行く仲間に導かれ、自分ではなかなか仕事をさせてもらおう気持ちになれないのに、とにかく、ついて行こう、ついて行こうと言う気持ちで、

一つずつ仕事をする事ができたようだ。こうして、結果、AAと一緒に歩いて行けたことを感謝する。自分が知っていたでできた仕事など一つも無かったが、仲間と一緒にやることで何とかできたようである。



この連携が一年間続いたことで地区の一体性が再確認されたと思う。「よしっ、できる!」と思つたものの、現実には不安な気持ちが続いて次々としてくる。日々、必ず成功すると信じ、願つて後はお任せであった。途中で一度横道にそれそうになったこともあったが、何とかきりぬけられて元の道に戻る事ができた。ラウンドアップ開催の前夜、ミーティングの中で私は自然に「実行委員長という役割を誰かにさせていたでいる」と言っていた。ハイヤーパワーだろうか、口に出したとたん気分がすーっと落ち着き心が静かになったのを感じた。

これほど気持ちが楽になれるとは、今でも信じられないほどである。様々な思いの中で考え悩んでいたことが嘘のような思いだった。ミーティングの中に一杯詰まっているハイヤーパワーを感じ、その力から落ち着きをいただくことができたのだ。

一人一人の仲間の思いが時間をかけて、少しずつラウンドアップの開催に向けて集まってきたように感じていた。いよいよ当日の朝、地域の仲間たちが集まってきた。各地からやって来た仲間の顔を見るたびに、地区の仲間と一緒に「安心」という言葉がそれぞれの胸の中に芽生えてきたのを感じていた。

全国からやって来た仲間と地域の仲間そして地区の仲間、みんなの思いが一緒になって盛大なラウンドアップとなったと思う。この三日間はかけがえの無い経験であった。何もできない実行委員長だったけれど、仲間のおかげで本当に貴重な贈り物ももらうことができた。心から感謝を申し上げる。

## JSOからのお知らせ

### <土日業務を再開します>

JSOの業務時間については経費削減や諸般の事情によって、しばらくの間土、日曜日の業務を停止いたしておりましたが、新スタッフも着任以来10ヶ月を過ぎ、業務も滞りなくスムーズに廻ってきたこと、及び全国のメンバーがJSOをご利用しやすいようにしたいとスタッフ一同、以前から願っていたことなどから、毎月開かれているスタッフミーティングで継続的に話し合ってきたりしました。その結果、10月からJSOの土日業務を一部再開することにいたしましたのでお知らせいたします。

土日業務の再開にあたり、財政問題や労務管理などを考えると様々なご意見はあると思いますが、現状では月に1回が適当と判断し、今秋10月より毎月の第4(土、日)の業務を実施いたしますのでご了解願います。

2001年10月27日(土), 28日(日)  
11月24日(土), 25日(日)  
12月22日(土), 23日(日)

午前10時~午後6時  
午前10時~午後6時  
午前10時~午後6時



一人でも多くのメンバーが訪れていただけますよう、スタッフ一同心からお待ち申し上げます。  
なお、土日業務は通常業務の形態ですが、スタッフはローテーション勤務(各業務日1名)となります

## AA日本ニューズレターNo. 89

編集・発行: AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO)〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ: <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>